

2000年7月 奈良工業高等専門学校図書館発行

目

巻頭言 「図書館の役割」	
校長 一岡芳樹	1
新任教官からのメッセージ	2
卒業生からのメッセージ	4
心に残る一冊の本	7
平成11年度 多読表彰	8

次

図書館を有効に利用するために	
図書係 清水美代	9
読書感想文コンクールについて	11
平成12年度図書館委員会	12
図書館からのお知らせ	12
学生会図書委員の広場	13
平成11年度図書館利用状況	15



図書館の役割

校長 一岡 芳樹

本年4月、本校の校長に就任致しました。本校のような教育機関の大切な部分に図書館があります。図書館の蔵書は知的財産の集積の一つの証しであり、利用度の高さは知的活動のパロメータと見なされます。就任後、本校の図書館の貸出利用状況が大変よいことを聞いて本校の知的活動の高さを知り安心しました。奈良高専の図書館の貸出冊数は全国高専の中のベスト3に入っています。全校集会の時の多読表彰には少し驚きましたが、よい制度だと思いました。昨年度の貸し出しナンバー1は機械工学科4年のクラスで、貸し出し件数が、年一人当たり43冊だそうです。本校の多くの学生が色々な調べものやレポートをまとめる時に図書館をよく利用し、また、読書に親しむ習慣を持っていることが窺われます。さらに、前図書館長のご尽力で始まった一般開放も地域社会に密着した大変よい制度だと思います。

情報化社会の進展に伴い図書館のある部分には電子化が当然のごとく入ってきました。蔵書の検索などは随分電子化されてきました。また、最近では電子出版の話が話題になり、世の中の趨勢はそちらに向いているように思われます。年輩の人間は、電子出版と聞くとまだ、？の感じがします。読書の楽しみの一つは、図書館や本屋の書棚から背表紙をみて本を取り出す時のあの期待感とときめきにあります。電子書籍になるとディスプレイに表示される文字列を眼で追うということになるのでしょうか。しかし、ディスプレイは構造上ちらつきがあって、長時間の読書には堪えられません。また、今のパソコンの能力ではとても書物と同程度のスクロール(頁めくり)は出来ません。美しい挿し絵やカラー写真のように大容量のメモリが必要なものも、電子化に向いていません。だから、電子出版は、おそらく最先端のトピックスを掲載した専門誌とか、優先権を主張する特許情報、固定的で持ち運びが不便な辞書的なものに限られるような気がします。普通の書物、教科書、文庫本、週刊誌、雑誌などは、手軽に運べ、どこでも読むことができ、ぱらぱらとページめくりができ中味がすぐわかり、どんな姿勢でも読める、電源がいらない、保存性がよい、値段が安い、など電子書籍ではとても及ばないよいところがたくさんあります。

保存性という点では、数年前のサイエンス誌上に、ロゼッタ石と最先端の光ディスクメモリのどちらをとるかという記事がありました。その内容は、コンピュータやそれに必要なソフトは日進月歩で進歩しているものの、現在、電子出版された文書が10年後の情報機器で解読できるだろうか？ というものでした。いくら最先端のパソコンであっても、ソフトやフォーマット、寸法が合っていなければ解読不能です。私たちはすでに一度この経験をしています。7、8年前のパソコンにあわせて5インチフロッピーディスクに記憶させていたデータは、現在全く役に立たず棄ててしまいました。ロゼッタ石は、5000年前の文字情報を的確にわれわれに伝えていますが、10年にも満たないフロッピーディスク上の情報が失われてしまったわけです。時代はどんどん図書館の電子化、電子出版にむかっています。もちろんその利便性はよく理解できます。しかし、逆に、多数の本や文字を記録した資料を保管する図書館の役割が、これまで以上に重要になってくるような気がします。学生諸君は、今後、できるだけ書物に親しむ習慣をつけてください。

新任教官からのメッセージ

読書の魅力とは・・・

一般教科 森 弘 暢

「私の趣味は読書です」といっても信じない人が多いでしょうが、これがどうして、案外読書好きなのです。かといって、幼少の頃から本を読むことが好きだったかという、全くその反対で、小学校の頃は、机にじっくり座ることが大の苦手。外で遊んでばかりいて、本を読むことは大嫌いでした。そんな私ですが、ちょうどみなさんと同じ年代の頃、高校生のときから本を読み始めるようになりました。最初は、ドラマの原作や推理小説などを讀んだりしていました。読み始めると途中でやめることができず、夜通し讀んだりすることもよくありました。

それでは、どうして読書が人を魅了するのだろうか。そんなことを考えて本を讀んだことはありませんでしたが、これを機会に少し私なりに考えてみました。

度々、評判の良かった小説などが、ドラマ化されたり、映画化されたりすることがありますが、いざ役者が演じたそのストーリーには、物足りなさを感じたりすることがあります。おもしろかったマンガがドラマ化されたりしたときにも、同様の物足りなさ、つまらなさを感じます。それはどうしてでしょうか。私は、そこに読書の持っている魅力の1つが隠されているのではないかと思います。文章として発せられるサインから、まだ見ぬ風景に思いをさせ、自分自身で登場人物を作り上げる。つまり、自分自身の空想力をフルに発揮

させ、頭の中に風景、風の香り、暖かさ、冷たさ、そして人物像を作り上げる。人間の持っている五感を体内で感じさせるところに読書のおもしろさがあるように思います。

ここで、私がこれまでに讀んだ本のなかで、印象に残った1冊を紹介したいと思います。「このころの達人」(NHK出版)という本で、宮本武蔵、千利休といった人物の生き方がえがかれています。この本は、大学3年生のときに讀みました。ちょうど、一人暮らしを始めた頃で、すごく心に響いたことを覚えています。

そのなかで、こういった一節がありました。宮本武蔵のことを書いてあるところです。「～いづれの道にもわかれをかなしませず～人生とは別れの連続である。現代においても単身赴任のサラリーマンは赴任する時、妻や子と別れなければならない。しかし一週間たてば、あるいは一月たてば、また会えると思うから、悲しまなくても別れることができる。だから、それほど別れを悲しまなくともよいが、昔の兵法者はそうはゆかない。人と別れた後に立ち会いをすれば、いつ、死ぬか分からない。明日、死ぬかもしれない。だから人と別れる時は、もはやふたたび会うことができない、と覚悟しなければならない。」

私もこの平和な世の中で生きていて、明日の生活を心配して生活していることはないです。しかし、一日一日を大切に生活していきたいと思えます。昨日と同じ今日、今日と同じ明日ではつまらない。新たな一歩を踏みしめていきたいと今回再確認させていただきました。



洋書とのかかわり

電子制御工学科 山本 和男

皆さんの中にも大勢いると思いますが、多くの学生は英語に対し厚い殻の中に閉じこもってしまう傾向があるようです。私もそういった学生の中の一人でした。

私が洋書をはじめて読んだのは大学4年の卒業論文の時期、英語と聞いただけでも体調を崩してしまう（ちょっと言い過ぎ？）ような状況でした。つまり、洋書を読み始めるまでにかかりの時間がかかり、読んでる時間よりもそれにとりかかるまでの時間のほうが長いくらいでした。このようなことは私だけでなく多くの学生にあることのように思います。しかし私はその先を知ることができました。今では邦書と同じように洋書を読み始めることができ、まだまだ洋書を読む時間は邦書を読む時間に比べても倍以上かかりますが、それほど苦に思うことはなくなったようです。

また専門書や一般図書の洋書の中には翻訳されたものが多く存在しますが、私自身は洋書を直接読むことをお勧めします。邦書にもあるように洋書にも作者には作者なりのいいまわしがあります。そういった言葉を直接学び、皆さんが持つ英語への関心をより大きなものにしてください。

まずは自分の興味のある分野から、きっと英語力の向上にはもちろん、今までになかった世界が皆さんの頭の中にどんどん入り込んでくることでしょう。周りから課せられる勉強ばかりでなく自分からする勉強へ、英語の分野にもそういった考えを持ってください。

読書について思うこと

物質化学工学科 伊月 亜有子

最近はインターネットを初めとして、テレビ、ビデオ、CD、DVD等、数々の情報メディアが手近にあり、強烈な映像で直接目に訴える情報が多く、大変便利になっていますが、その反面、活字をみる機会が少なくなっているのではないかと

う気がします。

私が最近読んだのが、「五体不満足」(乙武洋匡著)(話題になっている本にはできるだけ目を通すようにしています。もっとも、最近は専門書を読むことが多くなりましたが・・・)「不自由ではなく不便だけ」と言う乙武さんの言葉を聞き、私が今まで持っていた身障者への「気の毒」「助けてあげなくては」という気持ちが健常者のおごりであることを痛感しました。乙武さんの努力、頑張りもさることながら、自分という人間は、この世にたった一人しかいないのだから、自分らしさを見失わず、自分に誇りを持って生きていくという生き方に共感を覚えました。一読をお勧めします。

私の読書の分野は限られておらず、何がおもしろいかは個人の環境とその時の精神状態に左右されるものであり、良書と悪書の区別など本来ないと信じるからです。読書傾向と価値観には相関があり、なるべく雑多な内容の本を読む方が良いのではと・・・。

私が読書をするメリットの一つとして、活字から得られる情報を種々頭に描いて想像力たくましく思いを馳せることは、それ自体楽しく、また“想像”する事が“創造力”の向上へと発展する可能性があり、楽しみながら自分の潜在能力を高められる貴重な機会になると思うからです。みなさんには、人生の良き友として本と付き合うことをお勧めします。宇宙の果てから原子の世界まで、過去から現在、未来まであらゆる情報を手に入れることができ、夢を膨らませてくれます。種々雑多な書物に接し、自分自身の頭で考え、何が大切で何が大切でないか、自分自身の価値観を確立することが大切ではないかと思うからです。



卒業生からのメッセージ

高専での読書生活

機械工学科 渡辺 康仁

(京都大学)

はじめまして。ここでは僕の高専時代の本との関わりについて書こうと思います。今もやっているのかはわかりませんが、僕が1年生の最初に中和田先生が大視聴覚室で読書の素晴らしさと、読書習慣の身につけ方の1例について話して下さいました。そのときに先生は「まずマンガを読む習慣をつけたらいい」と言われました。素晴らしいアドバイスでした。そのアドバイスから、何かの習慣をつけるときには、今の自分にできて、しかも楽しめることをやればよいということ学びました。僕はそれからお昼の休憩時間によく図書館に行って、そこで「はだしのゲン」などのマンガを読むようになりました。そのように楽しむ気持ちをもって本を読めたので自然と本に親しんでいくことができました。

校長先生も読書を勧めておられ(先生は、読書は最高の娯楽であると教えて下さいました)、さらに高専には読書案内100選というものもあったことから、読書習慣を身につけるために目標を持つとうと思い、僕は自分の読みたい本を5年間で100冊読むことに挑戦しようと考えました。そこで読書ノートを作り、本を1冊読む毎にノートに本の題名と著者名、出版会社名を書き、さらに気に入った文章を書き写したり、自分の思ったことを書いたりしました。また読書案内100選の本を読んだ時には学生生活のしおりに載っている本の題名を消していくようにしました。そうすることで本を読むことの達成感を味わいながら楽しく読書をしていきました。最終的に卒業するまでに読んだ本の本数は134冊でした。今思うと決して多い数ではありませんが、読書をしたおかげでほんの少し視野が広がったと思います。この文章を読んでいる学生の方は多分読書家であると思いますの

で、読書の素晴らしさも分かっておられる人ばかりだと思いますが、読書ノートを作ると読書生活もまた少し楽しいものになるのではないかと思います。もしよければ1度やってみて下さい。

では高専生の皆さん、素晴らしい学生生活を送って下さい。

お お き に

電気工学科 福山 広

(奈良高専 電子情報専攻科)

「学生証で借りられるの?」と驚き、その手軽さにふれてから、かれこれ5年もお世話になっています。小説などの文学に微塵の興味も持っていない私にとって、地元の図書館では隅に(おまけの様に)おいてある理系の書とか、購読もされていない雑誌が多くある高専の図書館はなかなか有り難かったです。

最初に本を借り出したころは落書きの多さに面食らってしまいましたが、それが「有用なもの」だと気づくのに時間はかかりませんでした。また、ビデオや、LDを見られるということにも驚きました。最近ではパソコンを設置されるなど、私たち利用者にとってよい環境を提供しようとする姿勢には頭が下がります。

いろいろと工夫されているものの中で私は「ブック・ハンティング」が特に気に入っています。委員の皆さんが購入された本はしばしば的を得ていたので、よく借りました。私は何度か「希望図書」をリクエストしたのですが、案の定採用されなかったので、図書委員をやってあげよかったですと後悔しています。

図書館は年中快適だし、雑誌やマンガも借りられてうれしかったのですが、もっと新しい本を入れてほしいというのが私のわがままです。「氣」とか「發」などの字を使った専門書もいいのかも思いますが、もっと、利用に即した実用性のある

本を入れて頂けるとよいと思います。

振り返ると小・中学生の頃は近所の向島図書館をよく利用していましたが、高専へ入ってからは数えるほどしか行きませんでした。というか、行く必要がなくなってしまうました。学食の帰り道に「快適な場所」がある。昼寝するもよし、涼むのもよし、また、知人と待ち合わせるもよし……、と図書館の利用法には皆それぞれのスタイルがあるようです。こんな利用しやすい図書館を私はほかに知りません。また、度重なる延滞にも「返してくれたらええよ」といっておられた元図書館長の中和田先生の笑顔が忘れられません。

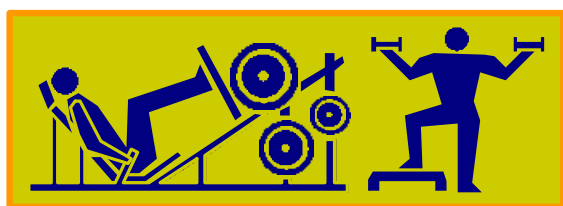
決してマナーの良い利用者ではなかったですが、原稿を書かせて頂いてうれしく思っています。いつも笑顔で接して下さる図書館の方々にお礼申し上げます。

図書館について

電子制御工学科 井上 正俊

(長岡技術科学大学)

私は本が好きである。だもんで確かに図書館にはお世話になった、と思う。しかし、結局のところ、一番借りたのはレポートの課題のために借りた本だった。今考えると、そのことがかなり悔やまれる。なぜなら、ここの図書館にはかなりおいしい(と形容して良いものかどうか……)物がたくさんあるからだ。そのことを知りつつもいまいち図書館を活用しきれなかったのが残念。その最たるものがLDだ。わたしは、まあ、俗に言うところの『オタク』という部類に属していたので、いわゆる一般的な若者が好むような映画にはさして興味を引かれない。かわりに、興味を持ったのが『スクリーン・ミュージカル』と呼ばれるものだった。これらについて語るのは別の機会に譲るとし



て、ここの図書館にはその名作と呼ばれるものが多数置いてある。いくつかは観たものの、すべて観きれなかったのがまったく失敗であったと思う。なぜなら、それらの作品を『タダ』でしかも『手軽』に見ることのできる機会など、そうあるものではないからだ。これと同じ事は小説にも言える。小説の一冊一冊は確かに安く、手ごろな価格である。しかし、それも『一冊一冊』であれば、の話だ。シリーズになるとすべて読むのにはかなりの出費を覚悟せねばならない。ハードカバーや文庫でも『グイン・サーガ』(著 栗本薫)のような大長編であればなおさら、いわんや専門書をや、てなものである。さらに、語学関係の本や宗教関係の本だって、自分で買うとなるとなかなか手の出ない値段の本や、読みたいけど買うのはちょっと、という本も図書館には結構ある。しかも、これらはすべて『タダ』なのだ。……

とまあ、ここまでなんやかんやと書いたが、要は『もっと図書館を利用しよう』ということが言いたいのだ。最初に書いたが、私自身そんなに図書館を活用していたとは思えない。それなのにこれを書いている(= クラスで一番本を借りたらしい)ということをもう少し皆(うちのクラスだけかもしれないが……)に考えて欲しい。それともう一つ。図書館にグループで来るのは良い、しゃべるのも良い。しかし、騒ぐのはどうか(もちろん一部の人間だが……)。建前でも、図書館は本を静かに読むところで、少数ではあるが、しかし確実にそう言う人たちは存在しているのだから。

素晴らしい高専図書館

情報工学科 加納 郁子

(奈良女子大学)

最近、私はやっと大学生活に慣れてきて、大学のシステムや、建物の位置などがだいぶんわかるようになりました。本を読む余裕も出てきたので先日、図書館に足を運んでみました。レンガ造りのきれいな建物で、しかも3階建てという豪華さ。入館するにも学生証のバーコードを機械に読み取らせなければなりません。ドキドキしながら、私は入

館したわけですが、その中はほとんどが専門書で埋め尽くされており、私とはおよそ無縁な世界でした。図書館と聞いて、反射的に高専の図書館を思い描いていた私は、本当に悲しくなり、そして高専の図書館を心から懐かしく思いました。

思い出してみると、高校受験のとき、私は読書を止めていたので、その反動で高専に入学してからは、たくさんの本を読んだように思います。ジャンルを問わず、本当に様々な本を読みました。小説だけでなく、エッセイ、詩や短歌、漫画などいろいろ読みました。『ベルサイユのばら』を読んで、授業中に泣いていたこともありましたが、『坊ちゃん』を読んで電車の中で笑ってしまったこともありました。図書館で借りた本が重たくて、教科書は仕方なく学校において帰ったことも1度や2度ではありません。そんなふうに、たくさんの本が読めたのも高専の図書館があったからだと思います。

さて、大学の図書館は使えないとわかった私は今のところ、読みたい本は全て購入しています。しかし、大学へは電車で片道約1.5時間かかるのですが、その間ずっと本を読んでいる私なので、購入なんてしているとすぐに財政難に陥ってしまいます。とても、つらい状況です。その点、高専生の皆さんは、毎日通うところに素晴らしい図書館があるわけですから、どんどん活用してほしいと思います。高専の図書館はわりと新しい本が置いてありますし、雑誌も結構たくさんあります。暇な時は（もちろん、そうでないときも）図鑑などを見てみるとなかなか面白いことを発見できるかもしれません。ジャンルを特定せず、色々な本を手に取り、ぜひ読んでみてください。せっかくある図書館なのですから…。

図書館を100倍楽しむ方法

化学工学科 岡橋 良太郎

(三菱重工業)

あなたは図書館をどのように利用していますか？ほとんどの人は実験レポートやテスト勉強の時にしか使っていないと答えるでしょう。しか

し、あなどるなかれ図書館は使い方次第でもっと楽しい場所になります。これから図書館歴5年のベテランである私があなただけに、こっそりと図書館の楽しみ方を伝授していきましょう。

まず本選びから始めましょう。「図書館っていっぱい本あるけどいったい何から読んでいいのやら」という人は迷わず読んでください「NEWTON」科学雑誌なんてしんどいからイヤだ!! と思ったでしょ。まあ騙されたと思って読んで下さい。ビックリしますよ。現代科学のスゴさに。そして、高専生のほとんどの人がもっているはずである科学に対する知的探求心をこれでもかという程刺激される事はマチガイないでしょう。ちょっとだけ学校の勉強もガンバッテみようかなと思えるかも……。他にもギターのスコアやスポーツの本、さらにマンガまであるので、すぐに読みたい本を見つけられると思います。本が決まったら次は席選び、私のイチオシスポットはカバン棚の後ろの青いイス。クッションが硬からず柔らかからずの絶妙さで、しかも横に3つ並んでいるので、ついつい眠たくなってきます。そういう時はガマンせずに寝てしまいましょう。家で寝るより気持ちいいかも。

「本はイヤッ」という人は、ビデオ・LDを見たらいい。私も5年生になってから見はじめたけど、これはなかなかの品ぞろえ。自分でビデオ屋に借りに行くよりはよっぽど名作に巡り合うことができると思います。しかもタダで。そう、やっぱり本をいくら読んでもビデオを見まくっても全然お金がかからないというのが図書館の一番の魅力じゃないかなって思う。

図書館の良さ、あなたに伝わりましたか。使わなくても別にどうなるって事もないけど、使えばもっと生活が楽しくなる。そんな図書館、あなたもどんどん利用してはどうですか？



心に残る一冊の本

<あなたにも薦めたい> (その10)

私の中の一冊 【 蝉しぐれ 】

藤沢 周平 著

情報工学科 多喜 正城

今でこそ、本が好きで、どこに行くのも、必ず、ポケットに一冊入れて行くくらいであるが、高校に入るまでは、本と言えば、漫画ばかりで、言葉や漢字など、ほとんどこれらから学んだ。小学校の頃には、月刊誌「おもしろブック」や、「少年画報」などが主で、その頃の作家、ばばのぼるや杉浦しげる、手塚治、山根一二三などに影響を受けた。特に、山根一二三の駄洒落漫画、「ごろっぺ」には、いまだに影響が残り、口をついて出てくる親父ギャグがそれを示している。私の小学生の頃、創刊の週刊少年マガジンでは、ちばてつやの「ハリスの風」や、「あしたのジョー」などに親しんだ。大学に入り、白戸三平の「カムイ伝」これに刺激を受け、学生運動に走ったものも結構いたようだった。そして、卒業後は、ビッグコミックオリジナル、やまさき十三の「釣りバカ日誌」、黒鉄ヒロシ「赤兵衛」。これはいまだに愛読している。ところで、本格的に小説を読むようになったきっかけは、高校で、小学校以来の親友から勧められた、吉川英治の「三国志」である。いろいろな格言があり、これが原点だったのかと、驚くことばかりであった。それから、小説に興味をわき、次に読んだのが、司馬遼太郎の「竜馬がゆく」。この作家の作品は、次から次へと、実によく読んだ。そんなことから、時代小説が好きになり、山本周五郎、子頼沢寛、井上靖、海音寺潮五郎、村上元三らの時代小説を次から次へと読んだ。特に、山本周五郎の人情ものには、心を打たれることが多かった。外国小説は、フレデリック・フォーサイスのだけは読んだが、その他はほとんど読まなかった。

さて、私の中の一冊といえば、やはり、藤沢周平の「蝉しぐれ」である。これは、15歳の少年時代から、20代半ばぐらいまでの青春時代を扱っているが、父の仕事振りとお家騒動に巻き込まれ無念の切腹の後に、その屍を荷車に乗せて帰る場面や、その後起こる幾多の困難を乗り越え、友情のすばらしさと、恋のはかなさ、剣の厳しさなどが情景豊かに描かれており、時代小説でありながら、なぜか現代にも通じる、学生時代に必読の小説だと思った。これは、ぜひ、同年代の君たちにも薦めたい一冊である。

【 海 嶺 】

三浦 綾子 著

物質化学工学科 河越 幹男

江戸時代には鎖国政策のために多くの船乗りが漂流し、運良く生き残った者は数奇な人生を送った。これら日本漂流民の生き方に興味を持ち、これに関連した小説を幾つか読んだ。井上靖著「おろしや国酔夢譚」、井伏鱒二著「ジョン万次郎漂流記」、吉村昭著「漂流」などで、いずれも実際の出来事を小説化したものである。

三浦綾子著「海嶺」の一部はカナダ留学中(1979年10月～1980年9月)に読んだ。留学中は日本語の文章に餓えていたので、たまたま知人から借りた月遅れの日本の週刊誌を貪り読んだ。「海嶺」はその週刊誌に連載されていた。連載途中の一部分ではあったが、十分に面白かった。帰国後半年ほどして、

この小説の上下2巻からなる単行本（朝日新聞社）が出たので買って読んだ。江戸末期の漂流民の話である。1832年（天保3年）、熱田港を出港した千石船が江戸へ向かう途中、嵐に遭い1年以上漂流した後、カナダに漂着する。何十人もいた乗組員の内の三人のみが生き残り、イギリスの植民地総督に救出される。三人は地球を一周して日本に送還されることになるが、三人を乗せた商船は鹿児島において幕府の出した外国船打ち払い令によって追われ、三人の帰国はかなわなくなる。日本ではモリソン号事件として知られている事件である。

最初にあげた三つの本も含めて、共通していることは、漂流という過酷な条件下でも、希望を失わず、積極的に生きた者のみが生き残るということである。漂流とは、日常性からの脱出である。勿論、漂流は不運な事件であるが、漂流することによって他人には想像もできない外の世界を見ることができる。その意味では幸運である。身に降りかかる事件や事故は我々には予見しようがないが、それに対処する方法は我々自身が決めることができる。そのことをこれらの本は教えてくれる。学生諸君にも是非読んで戴きたい。生きる勇気と希望が湧いてくるはずである。

平成11年度 多読表彰

より多くの人に、より多くの本を読んでほしいと、前館長が設けられた多読表彰も4回目を迎え、5月16日、校長室において表彰式がありました。平成11年度の表彰クラスは表の通りです。また、副賞は相当する金額の希望図書を購入できることです。

なお、本校の図書貸出冊数は、全国高専でもトップクラスですが、あまり利用していない学生諸君も多くいます。皆さんの学習の拠点施設として大いに利用していただきたく思います。

第4回 多読表彰クラス

順位	クラス	1人当たり貸出数	副賞
1位	機械工学科4年	43.0冊	4万円相当の図書
2位	電子制御工学科4年	26.7冊	3万円相当の図書
3位	物質化学工学科3年	25.4冊	2万円相当の図書
4位	機械工学科2年	23.0冊	1万円相当の図書
5位	化学工学科4年	21.5冊	1万円相当の図書

（受賞後の記念撮影）

図書館を有効に利用するために

～ホームページからインターネットを使って～

図書係 清水 美代

レポートや論文を作成するためには、まず情報を収集し、資料を入手することから始まります。ではそんな時、どうやって必要な情報や資料を入手すればいいのでしょうか。その方法の一つとして、本校図書館のホームページをうまく利用していただけたらと思います。

図書や雑誌・論文について検索するには、

A．図書や雑誌の有無、所蔵機関を検索する場合

B．著者名やキーワードにより論文を検索する場合

の2通りがあります。また、Bの場合は全文を画面上で見られるものと、目次だけしか見られないものがあり、前者を電子ジャーナル(オンラインジャーナル)と呼んでいます。

検索により見つかった資料や論文が本校で入手できない場合は、文献複写・現物貸借等の方法により、入手可能となります。

次に、本校図書館で資料や情報を収集するための、図書館ホームページの利用について説明します。

「図書館の情報」より

蔵書検索 本校図書館の蔵書が検索できます。

文献複写依頼(ILL) 文献複写の依頼ができます。有料です。

希望図書 購入希望図書の書き込みができます。

「本に関する情報」より

英国図書館所蔵目録 英国図書館の分野別蔵書検索ができます。

新外国雑誌目次データベース オランダのSwets社が提供する学術雑誌約14,000タイトルの目次情報(SwetScan)を見ることができます。収録分野は、理・工・農・医・生・人文です。また、E-mailを利用したSDIサービス(前もって雑誌のタイトルやキーワードの検索式などを登録しておき、該当雑誌や論文がデータベースに収録されたとき、その情報をメールで受け取る)が受けられます。複写依頼もできます。

電子ジャーナル(IDEAL) Academic Press社から刊行される学術雑誌約170タイトルの全文を画面上で読むことができます。収録分野は、物理・数学・化学・生物・心理学・経済学等です。

国立情報学研究所(NII)

Webcat 図書や雑誌の所蔵館を検索します。

NACSIC-IR 著者名やキーワードにより求めている論文を検索します。有料です。

NACSIC-ELS 学協会の発行する学術雑誌のページをそのまま画像データとして蓄積し、書誌情報とともに検索できるようにした情報サービスです。有料です。

DiRR 研究者の研究テーマや分野、所属機関等を検索します。

科学技術振興事業団 科学技術に関する文献や研究テーマ情報など、著者名やキーワードにより、1975年以降の文献の中から探し出すサービス(JOIS)です。有料です。

特許電子図書館 国内特許・海外特許ともに全文または抄録を画面上で見ることができます。

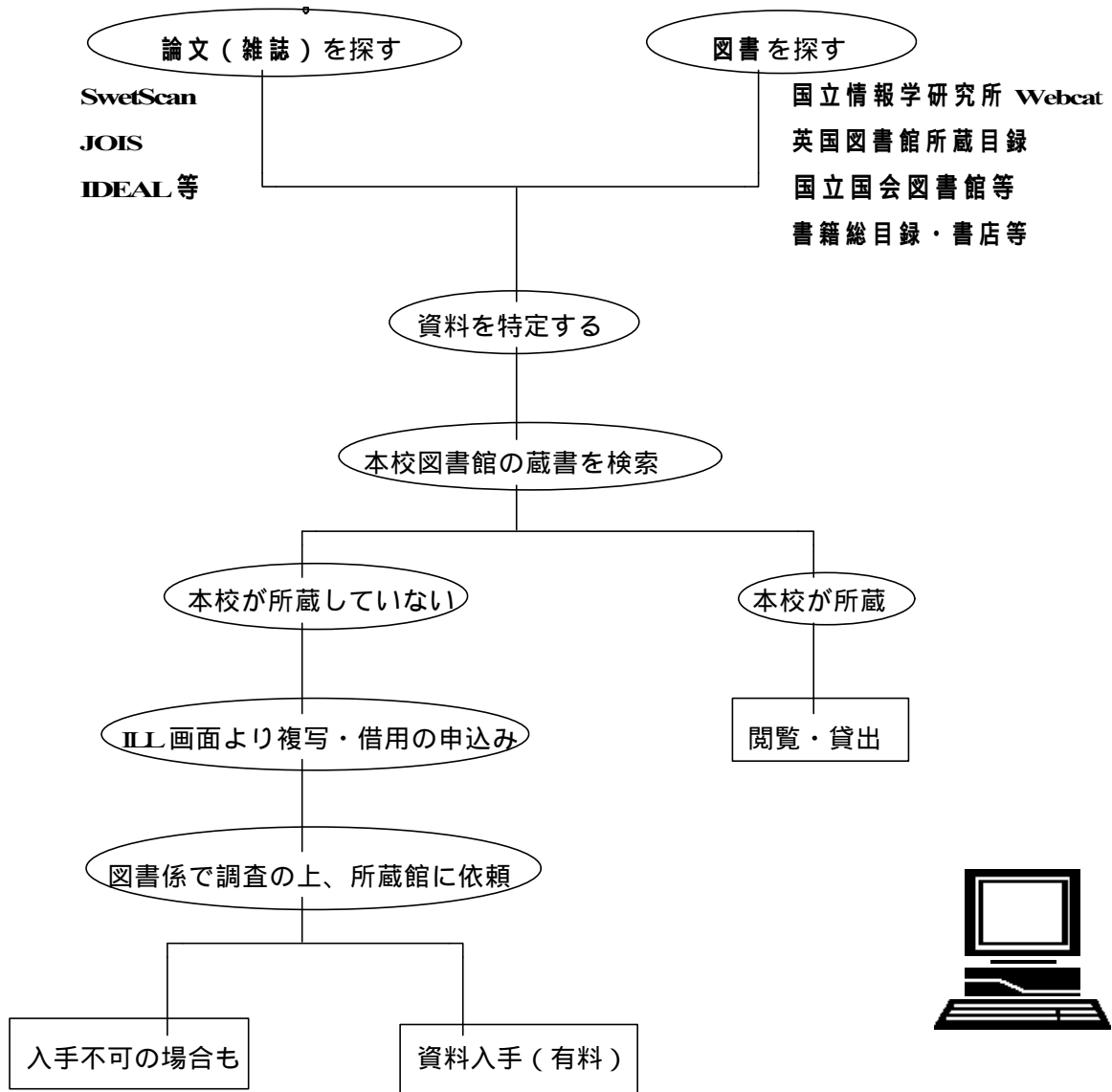
国立国会図書館・公共図書館・大学図書館等の所蔵検索ができます。

書籍総目録や書店等の情報 発行された最新の本の情報が入手できます。

なお、有料と表示されたものは、利用に当たり指導教官の許可が必要です。この他、ホームページにはありませんが新聞記事も重要な情報源です。朝日新聞縮刷版・CD-毎日新聞等を用意しておりますから、必要になればいつでもカウンターまでどうぞ。

以上の機能を上手に使いこなして、これからの学習に研究に役立ててくださることを願っています。利用法などわからないことがありましたら、係員まで気軽に声を掛けて下さい。

資料を入手するまでの流れ



平成12年度読書感想文コンクール

本年度の読書感想文コンクールを、例年通り図書館委員会と国語科との共催で行います。

先生方からは以下の19編が参考図書として推薦されました。印をつけた2編は、人権問題の関係図書として本校の同和教育推進委員会から推薦があったものです。この他にも興味のある本「読書案内100選」などから自由に選んでかまいません。読書の成果を感想文にまとめ上げて下さい。3年生以上は自由参加ですが、積極的に多数の応募があることを期待します。

所定の原稿用紙2枚(800字)は1～2年生には国語の授業時に配布します。3年生以上の人は図書館に申し出て下さい。提出締切は9月1日(金)です。

文学作品の部

罪と罰	(ドフトエフスキー)	新潮文庫(上・下)
吾輩は猫である	(夏目漱石)	岩波文庫
こころ	(夏目漱石)	新潮文庫
冬のひまわり	(五木寛之)	新潮文庫
山椒太夫・高瀬舟	(森 鷗外)	岩波文庫
銀河鉄道之夜	(宮澤賢治)	岩波文庫
中原中也詩集		岩波文庫
燃えよ剣	(司馬遼太郎)	新潮文庫(上・下)
さぶ	(山本周五郎)	新潮文庫
ロミオとジュリエット	(シェイクスピア)	新潮文庫
十五少年漂流記	(ジュール・ベルヌ)	角川文庫
破戒	(島崎藤村)	新潮文庫

文学作品以外の部

在日外国人	(田中 宏)	岩波新書
哲学ノート	(三木 清)	岩波文庫
七三一部隊 生物兵器犯罪の真実	(常石敬一)	講談社現代新書
英語屋さん	(津出善文)	集英社新書
水底の歌 - 柿本人麿論 -	(梅原 猛)	新潮文庫
大和古寺風物詩	(亀井勝一郎)	新潮文庫
商(あきんど)人	(永 六輔)	岩波新書



平成12年度図書館委員会

図書館長	宮本止戈雄
図書部会	部会長：井口高行、委員：福嶋克彦、神澤和明、野々垣稔、寺西 大、押田至啓、武藤武士
視聴覚部会	部会長：押田至啓、委員は図書部会のメンバーと同一
研究紀要部会	部会長：押田至啓、委員は図書部会のメンバーと同一
幹事	庶務課長：小柳津 亨、学生課長：小坂和夫
図書係	係長：杉本龍信、司書：福井洋子、清水美代、事務補佐員：松田愛子、奥島美恵子、山口雅子

学生会図書委員会

委員長：村田祐一、副委員長：山野井祐太、玉井芳英、 印は学年代表					
	機械	電気	電子制御	情報	物質化学
1 学年	浅川志郎	小猿潤一	小林幹浩	佐藤和宏	久保揺亜
2 学年	大谷一斗	谷村朋恵	松村礼央	中島絵美	奥村耕平
3 学年	山野井祐太	玉井芳英	深江輝昭	元庄矢崇仁	山口宏治
4 学年	森 満帆	新 将司	村田祐一	響華代子	山田有香、遠山麻依
5 学年	西中宣由	木下善敬	南崎嘉伸	岡本圭司	中井直史

お知らせ

夏季休業中(7月18日～8月31日)の開館時間等は次のようになります。

- ・開館時間 * 平日 8時30分～17時
* 土・日曜日 休 館
- ・閉館日 8月14日(月)～8月23日(水) 蔵書点検等のため
- ・貸出冊数 6冊(7月10日 月 より貸出開始)

* 図書館ホームページのURLの変更

図書館のホームページのURLは今まで <http://libns.jimu.nara-k.ac.jp/> を使用していましたが、<http://library.nara-k.ac.jp/> に変更しました。しばらくの間は両方とも使用できますが、今後新しい方に切り替えて使用してください。

* 話題のDVDが入りました。

DVD用のソフトとしては「National Geographic」全23巻を購入しました。これは、本校図書館でも購入している雑誌、「National Geographic 日本語版」の集大成版で、地球の営みや自然の驚異、生命の神秘などを収録したものです。ぜひ一度ご覧になって、感動を実感してみてください。その迫力に、きっと驚かれることでしょう。

* 貸出資料の延滞に伴う貸出禁止措置について

最近図書の延滞が増えてきました。貸出期限の2週間が過ぎれば、必ず返却なり延長なりの手続きを取りましょう。また、読んでしまえば期限内であっても速やかに返却してください。次の人が待っていることをお忘れなく。6月10日以降、1冊でも延滞があれば貸出停止の措置に踏み切ることになりました。返却すればすぐに借りることができます。

学生会 図書委員会の広場



図書委員会と私

電子制御工学科4年 村田 祐一

皆さん、はじめまして。今年の図書委員長になりました村田です。去年の春、副図書委員長になった時、「これで来年委員長になったら、今世紀最後の委員長やな」と言っていたのが現実となっ
てしまい、自分に委員長が勤まるのかと、とても緊張しています。

私が奈良高専の図書委員会に入って今年で4年
が経つわけですが、その間、たくさんの事がありました。初めて図書館に入ったとき、普通の図書館と違い、専門書などがたくさんあったり、ビデオやLDの閲覧なども出来たりと、とても新鮮な感じがした事を覚えています。そして、今では当たり前前のように感じるようになった事ですが、学校の図書館に一般の人が来ているというのにも驚きました。ただ、その分カウンター業務が難しく、特に、ビデオやLDなどの貸し出しなど、なかなか覚えられなくて図書館の職員の方や、先輩に大変お世話になりました。そして4年間、ブックハンティングに参加したり、返却図書の整理中に自分の知らなかった面白い本を見つけたりと、自分なりに楽しみながら、委員会活動に参加できたと思います。

しかし、4年間も図書館を使っていると、色々な不備を感じる時もありました。例えば、興味のある分野の事を良く知りたくて図書館に行ったものの、自分の能力に見合った本が無く、挫折した覚えのある方も、おられると思います。また、検索に引っかかるのに、現物が無いという事も、何度かありました。他にも、学生からも色々な不具合の指摘が上がっていますが、対策は遅れ気味なように思います。今年はずっと『使える』図書館を目指して、活動に励んでいきたいと思っています。

図書館と今年の委員としての抱負

機械工学科3年 山野井 祐太

皆さんこんにちは！私が今年度の図書委員会の副委員長になりました山野井です。今回は図書館に関する事と、今年の抱負について書かせて頂

きます。

私が生まれて初めて図書館というモノに関わったのはまだ幼稚園児の頃です。家の近所に図書館ができて行ったのが始まりでした。すぐ親に図書館利用カードを作ってもらって借りた本は「世界の名車 - フェラーリ」という本でした。幼稚園のころ週に一回は図書館に行くようになりました。しかし、次第に他の事に忙しくなったのか小学生の高学年からはそう頻繁には図書館には行けなくなりました。しばらく図書館とは離れた生活をしていましたが、高専に入学してからは図書館にまた深く関わるようになりました。それは私がこの学校の図書委員に指名されたからです。最初は面倒だなと思いました。しかし決められていたので最初は仕方ないなと思いました。しかし、実際に高専の図書館に触れたり、委員会の活動をしていくうちにこの図書委員がとても面白く感じられるようになりました。奈良高専の図書館はそれまでの小中学校の図書室とは違い広く、そして専門的な本が充実した魅力的な図書館だと思ったからです。頻繁ではありませんがカウンター業務を手伝ったり（失敗して怒られた事もあります）年に2回のブックハンティングに参加したりと図書委員会の活動に参加させていただきました。

さて今年度は副図書委員長に立候補し、そうなる事ができました。せっかく副委員長になったのだから、みんなの読みたい本があり、そして快適に読書ができ、利用するみんなの要望が実現する図書館になるようなお手伝いがしたいと考えています。

3年間図書館に関わっているとさまざまな要改良点も見えてきました。本の老朽化問題や利用者のモラルの問題、インターネット端末の問題など・・・こうした問題もじっくりと解決していきたいと思っています。また、従来からの仕事であるカウンター業務や希望図書調査（特に学習用参考図書）も、より充実させて実施しながら、新しい事も積極的にやっていきたいと考えています。

私は図書館がみなさんに有益なものであるように努力していきたいと考えていますので、何か要望がありましたら是非クラスの図書委員にお伝えください。

図書館について

電気工学科3年 玉井 芳英

初めまして副委員長の玉井芳英です。今回は図書委員の抱負を書いてほしいということなのですが僕に抱負などというものはありません。僕の考えでは、今この瞬間を悔いの残らないように生きていけば良いのです。もしかしたらあと1秒後には急に死ぬかもしれないのです。

私事はここまでにして話を図書に戻しますと、今まで書いた事をふまえるともっと人生を充実させてほしいということなのです。例をあげて説明しますと、昔の僕はトイレに行くのは時間がもったいないと思っていました。しかし、今はトイレに行くのも僕の楽しみの一つです。それは、トイレに本を置いたからです。まあ一度やってみてください、個人差はあると思いますが結構楽しいです。このように人生を謳歌する方法は他にもいろいろあると思いますが、本もあると忘れないてください。

作家芥川龍之介さんの言葉に、「人生は一箱のマッチに似ている。重大に扱うのはばかばかし

い。重大に扱わなければ危険である。」という言葉があります。僕の考えではまさにこれは、人生というものをうまく表現したと思います。まあ言うならば「言葉の錬金術」と言ったところだと思います。このように本を読んでいればおもしろい表現を見つけられるかもしれませんよ。

(ここからは余談です)読みたくない人は読まなくても結構です。(ここからは()の中は、心の言葉とと思ってください。)

これまで書いた事に題を付けるとしたら「本のススメ」(学問のススメのぱくりですすみません)と言ったところでしょう。話は変わりますが、「読みたくない人は読まなくても結構です。」と書いたらたぶん半分以上の人が読んだと思います(ちょっと自惚れ過ぎかな?)。人間心理学では、「読むな」と言われたら読みたくなるのです。それを使わせてもらいました。ちょっと怒ってしまった人には、「ごめんなさい」と言っておきます。(人間心理学の本も図書館にあるので興味があれば見てみてください。)それではもう眠たくなってきたので失礼させていただきます。

第14回 ブック・ハンティング

ブックハンティングが6月22日に市内の書店で行われました。福嶋先生と福井さんの引率のもとに15名の学生が参加しました。参加者の感想を聞きました。

1 I 佐藤 和宏

啓林堂は本が少ないと思いました。友達の言っていた本(コミック文庫など)が全く有りませんでした。僕の欲しかった少しマイナーな本などもなく、何を選べば良いのかわかりませんでした。

2 S 松村 礼央

私は、図書委員2年目になりブックハンティングの経験も今回で3度目になりました。最初はどんな本を入れていいかわからずとまどっていましたが、今では自分の選んだ本を誰かが読むと思うとどんどん本を選んでしまいます。私の選んだ本で1人でも本を好きになってくれればと思います。

3 I 元庄矢 栄仁

ブックハンティングでは、面白そうな本が多数あり目移りしてしまう程であった。クラスの人に希望は聞いていたが、見つからなかったので今回

は自分の趣味にハシることにした。という訳で自分の好きな推理小説を数冊入れてみた。自分の希望がすべて通り、なかなか充実していた。

3 C 山口 宏治

ブックハンティングで図書委員がクラスを代表して本を選ぶのはいいと思うが、今回について言うと、連絡が遅かったのもっと早く連絡をして欲しかったです。そうでないと、クラスの人々の意見を取り入れられなくなります。

4 I 濱川 剛

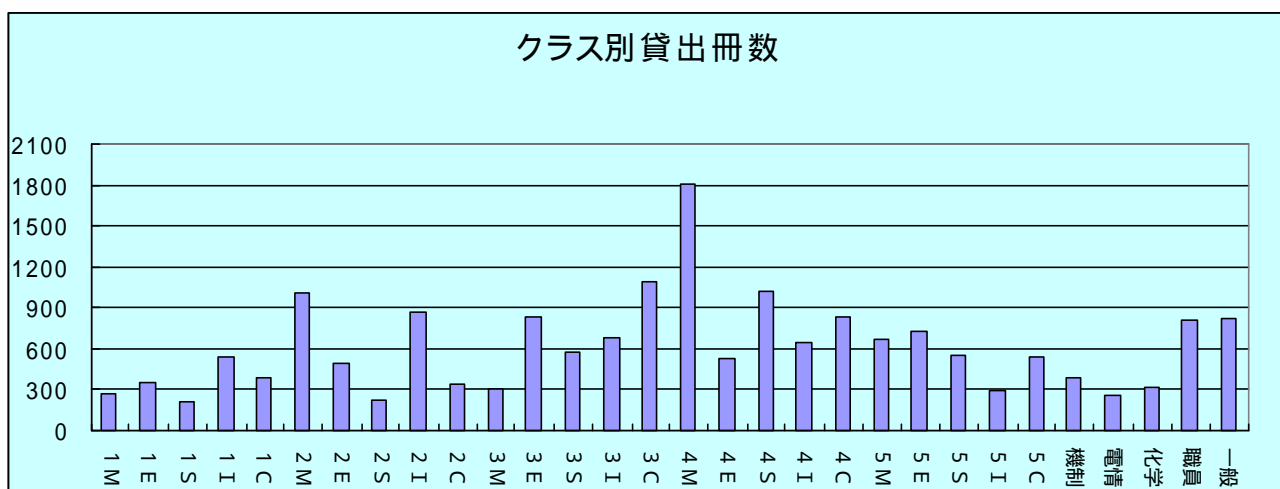
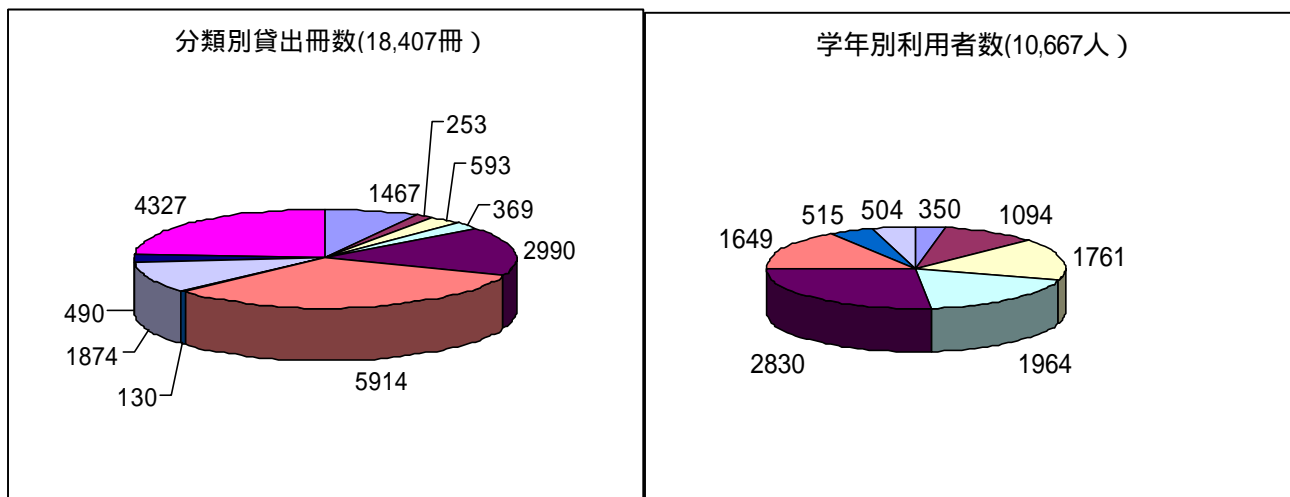
今まで読めなかった本を読むことが出来るので嬉しい。次の機会にも出来れば参加して、マイナーだけれども面白い本を入れることが出来たらいいと思う。

4 I 今岡 賢太

私は図書委員ではないのですが、今回で2回目の参加となります。なぜ参加しているのかと言えば、図書館に自分の読みたい本、皆さんに読んでもらいたい本を入れることが出来るからです。ブックハンティングはとても有意義だと思います。

平成11年度 図書館利用状況

開館日数	262日	図書館入館者数	107,599人	一日平均入館者数	
平日	226日	平日	100,871人	平日	446人
土曜日	36日	土曜日	6,728人	土曜日	186人
図書貸出延人数	12,344人	図書貸出冊数	18,407冊		
学生	9,813人	学生	16,773冊		
教職員	504人	教職員	812冊		
一般	350人	一般	822冊		



編集後記

第49号は新任の校長からの巻頭言を、同じく新任の3人の先生方からはそれぞれの読書のかかわりについて、寄稿していただきました。高専図書館をよく利用してくれた5名の卒業生は在校生向けにメッセージを寄せてくれました。二人の先生方からはそれぞれの一冊の本を薦めていただきました。いずれも在校生に図書館を利用してもらいたいための企画です。

また、高専の周辺から春らしい風景を探して表紙としました。(図書館委員会)